

健診センター

1. スタッフの紹介

部長	(センター長・准教授)	宮下 洋
医員	(病院助教)	平澤 知介 (消化器内科兼務)
医員	(病院助教)	吉澤 充代 (消化器内科兼務)
医員	(講師)	岩本美智子 (派遣中)
非常勤医員	11名	
看護師	主任看護師 1名	看護師 6名
保健師	1名	
管理栄養士	1名(兼任)	
臨床検査技師	4名	
超音波技師	2名(兼任)	
診療放射線技師	4名(兼任)	
事務職員	7名(業務委託6名)	

2. 健診センターの特徴

総合健診(一日ドック)の専門施設であり、

- 1) くつろいだ雰囲気の中で、迅速・正確な検査
- 2) 的確な結果判定と科学的根拠に基づく健康指導
- 3) 安心のフォローアップシステム

の3つの理念の下に、健診業務を行っている。

● 病院の診療とは独立した最新鋭検査設備による健診サービスの提供

附属病院とは独立した建物(自治医科大学一号館)内にあり、受診者はゆとりあるスペースと落ち着いた雰囲気の中で健診を受けることができる。内容的には、日本人間ドック学会、日本総合健診医学会の推奨に準拠し、健診項目には労働安全衛生法による定期健診の必要項目及びがん検診に関する項目が含まれ、また平成20年度から開始された特定健康診査に必要な項目もすべて含まれる。

● 附属病院の各専門診療科の協力による質の高い健診サービス

専門的な健診内容は、附属病院の産科婦人科(婦人科検診)、眼科(眼底写真読影)、循環器内科(心電図判読)、臨床検査部(腹部超音波及び乳房超音波の読影)、病理診断部(細胞診)、外科(マンモグラフィ読影)、中央放射線部(PET-CTの読影)の各診療科専門医の協力により運営されている。また、胸部X線検査、上部消化管X線検査、頭・胸・腹部CT検査は外部の放射線科専門医と2重〜3重読影を行って見落としの防止に努めている。

● コンピュータシステムの高度利用による迅速・的確な健診結果の管理

画像診断以外の検査結果は、学会標準の判定基準に準拠し、健診専門医の判定ロジックをプログラムしたカスタムメイドの健診コンピュータシステムは、迅速かつ間違いの無い健診結果の自動判定を可能にしている。結果判定のみならず、問診情報による病歴、生活習慣も結果説明までにデータとして取り込み、これらの情報を総合的に考慮した標準化された指導メッセージも導出し、健診当日の面談で医師がその結果を丁寧に説明し、メタボ対策を中心に健康指導を行っている。

● 健診コンピュータシステムと保健指導システムの連携

平成20年度からの特定健康診査・特定保健指導の制度開始に対応するため、健診センターの2階に個別指導用の面談室、集団指導用の小講義室、待合室などからなる保健指導室が設けられており、総合健診結果により「動機づけ支援」、「積極的支援」に階層化された受診者に対し特定保健指導を行っている。この新制度にも完全対応した健診業務コンピュータシステムは、健診・保健指導を併せて発生する、膨大な健診結果・保健指導・会計データの保存・管理を容易にしている。また、旧来の紙媒体を中心とした非効率の業務を減らし、無駄の少ないペーパーレスの業務を実現している。過去15年以上にわたる健診データもこのシステム内に保管されており、必要に応じて随時参照・比較することができる。特定保健指導は後日予約による指導が基本となっているが、これに加え、迅速な検査と健診コンピュータシステムによる自動判定は、必要であれば健診受診当日に健診結果が揃うと同時に特定保健指導対象者を自動抽出し、初回指導まで行う体制を可能にしておき、受診者や契約団体の便宜を図っている。

認定施設

日本総合健診医学会 優良総合健診施設
日本病院学会 優良人間ドック施設

認定医

日本内科学会 認定内科医 宮下 洋 他2名
日本消化器病学会 専門医 平澤 知介 他2名
日本消化器内視鏡学会 専門医 平澤 知介 他1名
日本医学会 認定産業医 吉澤 充代

3. 実績・クリニカルインディケーター

総合健診は一日36名を上限として予約を受けている。基本的健診項目は、マークシート式問診票による問診、

身体計測（身長、体重、腹囲、BMI）、視力、聴力、眼圧、眼底写真、血圧測定、尿検査、血液検査、呼吸機能、心電図、胸部X線検査、上部消化管X線検査、便潜血反応、腹部超音波検査などである。オプション検査として、平成19年度からPET-CT検査が追加され、従来から行っている頭部、胸部、腹部CT検査、胃抗体検査（ピロリ菌抗体、ペプシノーゲン）、腫瘍マーカー、婦人科検診（内診、子宮細胞診）、乳房検診（マンモグラフィー検査、超音波検査）、骨密度検査とともに充実した内容となっている。特に平成20年度に導入された最新鋭のデジタルマンモグラフィーは、乳癌健診の診断精度向上に威力を発揮している（表1）。また、平成21年度中にCTが最新鋭のマルチデテクタCTに、骨密度測定装置も新鋭機に更新され、各検査の精度と能率が格段に向上し、今後の活用拡大が期待される場所である。

2009年1月から12月までの年間受診者延人数は、健診の7,959人（健診実日数 240日、一日平均 33人）＋保健指導 190人（総数 8,149人）、大手企業や健保組合等の団体との契約によるものが中心になっている。当センターの特徴として反復受診されるリピータが多く、約85%を占めていることから、受診者に満足いただいていることが窺われる。また、本学教職員も412名が受診されており、特定保健指導と併せて、本学の福利厚生施設としても役割を担っている。この1年間の健診およびその後の精査で発見されたがんは23例あり、その内訳を表2に示した。

表3には受診者の特徴と保健指導実績を示した。特定保健指導は制度開始2年目となり、飛躍的な伸びを示している。

表1 放射線関係のオプション検査施行実績

	2008年 (1～12月)	2009年 (1～12月)
PET-CT	40	43
頭部CT	1,216	1,217
胸部CT	377	349
腹部CT	951	903
マンモグラフィー	686	1,132
骨密度 (DEXA)	265	222

表2 健診で発見されたがん

前立線がん	4
乳がん	3
直腸がん	3
肺がん	3
胃がん	2
大腸がん	2
甲状腺がん	2
B-細胞リンパ腫	1
子宮頸がん	1
食道がん	1
腎がん	1
計	23

表3 受診者の特徴とメタボ判定および保健指導実績（1月～12月）

		男性		女性		計			
年		2008年	2009年	2008年	2009年	2008年	2009年		
健診	総受診者数 ¹⁾		4,553	4,513	3,170	3,376	7,723	7,889	
	年齢		51.7±8.8	52.3±9.1	50.3±8.6	50.5±9.0	51.1±8.8	51.5±9.1	
	特定健診	メタボ判定	判定対象者数	3,501	4,479	2,368	3,360	5,869	7,839
			メタボ該当	864	1,093	128	207	992	1,300
			予備軍該当	667	887	125	178	792	1,065
	階層化	積極支援	752	925	92	128	844	1,053	
		動機づけ支援	313	425	147	192	460	617	
保健指導 ²⁾	特定保健指導	積極支援	13	55	4	17	17	72	
		動機づけ支援	1	18	1	19	2	37	
		計	14	73	5	36	19	109	
	簡易保健指導	156	103	80	77	236	180		

¹⁾ 総受診者数はドック受診日とは別に行うPET検査や後日追加健診、特定保健指導を除いた数

²⁾ 2008年は特定保健指導を開始した7月～の集計

4. 事業計画・来年の目標等

急性期医療を中心とした医療の経済的破綻を背景として、医療システムが特定健診をはじめとする健診・予防医療へシフトしていく社会情勢やニーズへ対応すべく、当健診センター運営方針としては：

- (1) 精度と受診者満足度の高い健診サービス・結果(効果)の出せる保健指導サービスの提供
- (2) 職員のゆとり・働き甲斐の向上をもたらす健診業務の合理化と内容の充実
- (3) 自治医科大学附属施設としてのブランド性向上と医学・学術的貢献

を基本と考えている。

現在、健診センターはさらなる変革を遂げようとしている。受診者からの要望と時代の趨勢に対応すべく導入準備を進めてきた上部消化管内視鏡検査が2010年5月から開始となる。また、業務を効率化し、より多くの受診者に質の高い健診・保健指導サービスを提供できるよう、健診業務コンピュータシステムを更新して業務のペーパーレス化等の合理化を行ってきた。さらに検査時間の短縮と受診者への説明内容の充実を図るため、全画像検査機器のデジタル化と検査画像のオンライン化の整備を進めている。

また、特定健診によりメタボリックシンドロームへの関心が高まっているのを背景に、メタボに伴う代謝障害による血管や身体の老化状態の進行状況評価のニーズも高まっている。これに対応したアンチエイジングコース等の新設を計画している。

自治医大の附属施設として、関連分野への医学的貢献も重要な課題と考えており、健診受診者を対象とした臨床研究の活性化を図っている。既に人類遺伝学部門と共同で「内臓脂肪蓄積と血圧脈波波形に関する遺伝子解析研究」が進行中である。また、特定保健指導の効果、血管、骨・筋肉等の運動器、体力・身体機能等の加齢変化や健診による疾患リスクの評価に関する研究を計画中である。